C−73 レイヤードルックの着装効果について

山口女子短大　藤本増惠

目的　1971年春頃より，レイヤード（layered）ルックといって，長袖のセーターやブラウスの上に，半袖のワンピースやジャケットを着て，下に着ているものを見せる重ね着ルックが流行している。そこで，レイヤードルックの着用の程度，着用する理由，イメージ等について調査すると共に，過去および現在の作例を集めて，その着装状態や美的効果を追求した。

方法　被服専攻の女子短大生90名を対象として，1973年2月と5月にアンケート調査すると共に，服装史の図版，絵画，外国および日本の服装雑誌より作例を集めた。

結果　着用の程度は，時々着ている，が2月では27％，5月では46％であり，1,2度着たことがある，常に着ている，を含めると76％に達する。着用する理由としては，組み合わせの楽しさがある，が34.6％で1位であり，イメージについては，色や素材を組み合わせるので可愛らしく優美な感じがする，が30.8％で1位である。着装感は，活動的で動きやすく良い，が83％ある。

重ね着は，西欧諸国では4C頃よりみられ，6，8，12，15～16Cにおいて男女共に数多く着用されている。日本では，鹿鳴館時代の上流婦人の洋装に数多くみられ，最近の服装雑誌では，1968年2月号より出始めており，1969年秋に急増し，'71年，'72年が全盛時代で，'73年では，色や素材を組み合せて，1着の服として製作されたものもみられる。重ね着は色や素材を自由に組み合せることができ，活動的であると共に，過去の優美な重ね着のイメージを生かすことができる。